1号議案 2023年度事業計画

1. ひまわり会

(1) はじめに

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の第6波~8波が発生しました。感染者数・死者数とも過去最悪の事態となり、その収束は一向に見えないため、利用者・家族・職員・法人を守る取り組みを今後も継続し、社会福祉法人としての使命を果たしていかなければなりません。

2022年2月ロシアによる一方的なウクライナへの侵略によって、世界的な軍事緊張が高まり、我が国においても大軍拡が推進されようとしています。軍事費に多額の税金を投入し、社会保障を解体し、国民に負担を押し付けることは、許せません。そして過去に例のないような物価の高騰を引き起こし、困窮の拡大が続いています。私たちは、人権を守り公正でいのちとケアが大切にされる社会の実現を目指し、平和憲法を守り抜きます。

私たちが暮らす地球では、様々な環境問題が起こっています。温暖化、海洋汚染、森林破壊に原子力発電の推進など、気候危機に対する学習を推進していきます。

医療福祉分野においては、2024年度の介護報酬、診療報酬、障害福祉サービス等報酬の改訂に向けての議論が本格化しています。介護分野においては、超高齢社会に向けて、利用料原則2割化、施設多床室室料負担の拡大など、利用者負担増への施策を推し進めようとしています。これでは利用者の利用控えが高まり、いのちと健康を守ることは決してできません。私たちは利用者、地域の要求に応え、健康権の実現を目指すとともに、安定的な法人運営を確立していきます。

私たちは、住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちづくりを「みみはらグループ」の一員として、共同で取り組みを進めていきます。必要な医療・介護・福祉サービスを一体的・総合的に提供し、いのちと健康を守り抜きます。

(2) ひまわり会の基本視点

- ・みみはらグループの法人、組織とともに、子どもから高齢者までが安全で安心な事業を行います。
- ・子どもや高齢者の権利を守る担い手としての職場づくりを重視します。
- ・みみはらグループとともに、地域の要求に応えうる事業所運営を行います。

(3) 全体の組織図

別紙

2. ひまわり保育園

(1) はじめに

新型コロナウイルスの流行から3年が経過しました。感染対策は、幼児クラスからマスクを着用し、手洗い、消毒等定着しています。それでも、感染者は時折出て、クラス休園も複数回経験しました。感染の心配はありますが、保育等でも制限など段階的に解除しています。5月から新型コロナウイルスは5類相当になり、インフルエンザと同等になります。状況をみながらマスクを外すなど対応を考えていきます。

運動会は2クラスずつ行い、概ね好評でした。2023年度も2クラスずつ行います。参観も ZOOMでの配信を行いました。画質は携帯の機種を変えることでかなり向上しました。しかし、電波の状況が悪かったのか、時々止まったり、音がきこえなくなる等ありました。2023年度は実際に参観に来ていただき、ZOOMとのハイブリットで保育を見えるようにしていきます。

2022 度は例年にない程子どもが少なかった年でした。0歳児は4月で定員が埋まりませんが、夏ぐらいには定員は埋まっていました。しかし、2022 年度で0歳児の定員が埋まったのは12月でした。少子化や預け控え、育休の充実等の影響を感じた1年でした。これから少子化も加速していく中、0歳児をどう確保していくのかということと、定員変更も視野に入れていかなくてはいけません。一時保育の受け入れや、赤ちゃん訪問事業にも力を入れ、子どもの獲得につなげていきます。

堺市長は財政危機脱宣言を解除しました。他市では子育て関連に予算を増やし、出生率が上がり、人口が増えて税収が上がるという正のループをつくった実績があります。加速度的に少子化が進めば堺市の税収が下がり予算がなくなるという負のループになりかねません。子育てに力を入れると訴えていますので、未来の子どもたちのためにも、保護者のためにも、子どもに対する予算を付けてもらえるよう訴えていきます。

(2) 基本方針と目標

【保育理念】

ひまわり保育園は、憲法及び児童福祉法や児童憲章 (・児童は、人として尊ばれる・児童は、社会の一員として重んぜられる・児童は、よい環境のなかで育てられる)に基づく児童の社会福祉施設としての役割を果たします。子どもの人間として健康で文化的に生きる権利を保障し、常に子どもの最善の利益を追求した福祉の増進に努めます。また、父母及び保護者の生活や就労を保障するための施設としての役割を果たします。

職員は子ども一人ひとりにていねいに関わり、子どもを守り育てる専門性を高めて保育に あたります。

【基本方針】

- 子どもの全面発達を保障するための保育をつくっていく
- 働く人たちの生活と働き続けることを守る
- 職員がいきいきと働きつづけられるようにする
- 地域に根ざし、住みよいまちづくりをすすめる

【保育目標】

私たちは、子どもが集団保育をとおして、人間としての基本的な生活する力を基礎に、健康で文化的に豊かな生活を送り、社会に生きる力を身につけていくための保育内容の実践をめざします。

【ひまわり保育園の子ども像】

- 健康で元気な子ども
- 意欲のある子ども
- 仲間とともに生きる子ども
- 豊かな感性で表現することを楽しむ子ども

【2023年度の子どもの入園人数】

5 歳児24名 4 歳児22名 3 歳児19名 2 歳児19名 1 歳児20名 0 歳児2名 計106名の予定です(3月15日現在)。

0歳児は定員12名で2022年同様、4月は少ないです。全国や堺市で子どもの数の減少は加速化的に進んでいます。これからもこの状態が続くことが考えられます。

(1) 主な保育内容

- 子どもの生活リズムを整える
- 身体づくりに力を入れる ・外あそび中心の保育
- リズム運動を毎日の生活の中に取り入れる。
- 4, 5歳児は和太鼓、民舞を日常的な活動として取り組む
- 給食室との連携
- ・ 安全、安心な食材で薄味で和食中心の給食をつくる・クッキング保育にも力を入れる
- 4歳児はおたのしみ保育 5歳児はお泊り保育 雪山合宿を行う
- ひまわりの家鳳、ひまわりの里鳳と連携し、世代間交流をしていく
- リモート機能と参観を充実させ、保育を可視化できるようにする
- ホームページを活用し、保育内容について発信していく

(2) 保育をよくする取り組み

【学習に取り組み 実践を書く】

保育の専門性を高めていくことはここ数年の課題です。職員もオンライン等も利用し学習に

参加しています。外部の研修にも参加しながら、園内でも取り組んでいきます。2022 年はビデオ撮影をして自分の保育を振り返ることがよかったです。現場にいなくても保育を他の職員が見ることができ、自分自身も見て振り返ることができます。昨年は公開保育等の場での撮影だったので、2023 年度は日常の保育等も撮影したりして振り返り学習する機会を多くつくっていきます。

【保育で大事にしたいこと】

これから少子化が進み、子どもが減っていく中で、保護者に園を選んでもらわなければなりません。保護者の方が参考にするのは、園庭開放やあかちゃん広場、見学など実際に来ていただいて現場の雰囲気を観てもらうことがまず挙げられます。保育士も一緒に楽しみながらも、保育、教育で押さえるところは押さえていくことを大事にしていきます。また、園の特徴等も伝えてアピールしていきます。

次に在園児に対してしっかり保育、教育をし、保護者の方にも観て聞いて分かっていただく ことが大事だと思います。ここに預けたいと思っていただければ多少のことでは転園せず、下 の子が産まれた時にはまた預けたいと思っていただけるはずです。保護者に日常的に話や懇談 会でも伝えていければと思います。

また、保育士の虐待のことが話題にもなっています。子どもの人権の問題や虐待防止に力を 入れて学習も行っていきます。

【保育の可視化】

新型コロナウイルスの影響もあり、保護者が保育園に来て保育を見てもらう機会が減りました。Zoom のシステム等を本格的に導入し、保育参観や再配信等を行ってきました。しかし、Zoom で一部動作に不具合が生じたり、音が割れたりすることもありました。そこで、今年度は参観と Zoom でのハイブリッドで行う予定にしています。参観や Zoom の機会はこれからも増やして保育を観る機会を増やす予定にしています。

3. ひまわり会 介護部門

(1) はじめに

2024年度の次回改定では「利用者負担割合の増加」「老健の個室料の見直し」など介護保険の根幹にかかわる改定がなされることが予想されています。

「ケアプランの有料化」「要介護 $1 \cdot 2$ の介護保険外し」「福祉用具貸与の見直し」に関しては 今回は見送られますが近々での施行は確実となっています。

私たちは利用者側にとって不利益になることには反対の意思表明をし行動を起こすとともに、 事業所を守る準備をしなければなりません。

2022年度も新型コロナ対策に追われましたが、この間の教訓を生かし、BCPの策定や訓練の実施など災害への対応の強化を図ることも必要です。

また、介護ショップや堺区での事業展開など新たな取り組みがなされる年でもあり、地域性や 規模、特色を踏まえた「各拠点」としての取り組みがさらに重要になります。

堺区はみみはらグループの一翼としての役割が強まります。特に同仁会とは経営面・運営面に 関してともに進めていくことになります。堺区では鳳・蔵前同様「住宅」「看多機」「訪問介護」 「訪問看護」事業の展開を予定しています。

(2) 2023 年度の具体的な取り組み

- ① 確実な予算達成に向けて営業やICTの活用・業務改善など各拠点において施設長・管理 者を中心に取り組む。
- ② 自拠点での「強み」「弱み」の分析をし「課題」「目標」に対して取り組みを行うまた、行政関係や請求業務など運営面に関しても各拠点で把握し実施できるようにする。そのための仕組みづくりを行う。
- ③ 役職や職能での施設を超えた交流の機会を持つ。
- ④ 全事業所での感染・災害時の策定。
- ⑤ 中堅職員・幹部のリーダーや組織運営に関する研修の計画と実施。
- ⑥ 資格取得やOJTなど人材育成。
- ⑦ それぞれの拠点における地域へのアプローチを積極的に行う。
- ⑧ 大阪民医連での各委員への引き続きの参加(介護職安全委員・介護福祉委員等)及び研修 や運動への積極的にスタッフが参加する。
- ⑨ みみはらグループでの役割への参加やエリアでの協働に向けて積極的に取り組む。

(3) 各事業の計画

【サービス付き高齢者向け住宅】

この間の新型ウイルス流行の教訓を生かし、災害・感染拡大時のBCPを机上の物ではなく

実際に使用できるよう訓練等も含めた準備を進める。

地域とのつながりを強める活動を増やしていく。

グループ内での連携や協働の取り組みを進め、重度化している入居者の終の住処としての役割とサービスの質の向上を目指す。

コロナ禍で実施できていなかった運営懇談会等を実施、もしくはリモートやアンケートなどにより、利用者・利用者家族の意見を尊重し、取り組みを実施し、その取り組みや、結果をニュース等で発信し、広く知ってもらえる活動を強化する。また利用者家族や地域とのつながりに、ホームページ、SNSや多種のコミュニケーションツールの活用を本格化する。

【看護小規模多機能型居宅介護】

医療度の高い利用者や重症度の高い利用者により良いサービスを提供するため、職能、キャリア、ケア別において積極的に研修等を実施する・

運営推進会議などで意見をきき、できることに対して積極的に参加する。また求められる役割を把握、理解し各施設や法人にフィードバックし、地域での役割に貢献する。

緊急ショートや相談支援などを通じて、地域のケアマネや他事業との連携を強める

医療度高い利用者のサービスに関してはグループ内で求められている役割を理解し、総合病院や在宅部門としっかり連携し利用者の療養生活を支援する。

法人の枠を超え他の事業所と交流を持ちサービスの質の向上や業務の見直しなどに取り組む。

【訪問看護ステーション】

施設外への訪問に取り組み地域のサービス事業所や医療機関と連携を強める。

看多機の利用者・住宅の入居者の医療的なサポートを行い、ケアの要となり、主治医・かかりつけ医療機関と連携を密にとり、ターミナル期の利用者や重症者が安心して療養生活が送れるように支援をする。

研修への参加やスキルアップ、職能としてのミーティングを重ね、それぞれの施設内において、医療分野に関してイニシアチブをとり率先して課題の解決や、実践を行える。

【ヘルパーステーション】

管理者・副主任(サービス提供責任者)ともに、日々のサービスが安全に利用者にとって質の良いものになるようヘルパーステーションの利用者・職員にしっかりと目を向け、業務が遂行されるようにする。

施設外のサービスに取り組み、地域のケアマネや他のサービスと連携し、信頼を構築していく。また地域の利用者に頼られ、可能な限り思いに沿った生活が送れるよう支援をしていく。 住宅での業務も並行して行う中で、現状の方法や視点にとらわれることなく、多角的な視点で生産性向上の取り組みを行い、よりよいサービスの提供ができる。 研修への参加や生産性向上への取り組み、ミーティング等を通じて、中堅職員が役割をもって活躍し、成長できる。

【介護ショップ】

10月開設に向けて準備する。

予算・事業計画案を6月理事会に提案する。

先行して「オムツ給付事業 | をひまわり会として申請する。

(4) 収益目標

サービス付き高齢者向け住宅

鳳:34.5/月 平均介護度 3.7

蔵前:53/月 平均介護度 3.5

看護小規模多機能

鳳:登録数 26 平均介護度 4.0 同一建物外 11

蔵前:登録数24 平均介護度4.7 同一建物外9

訪問看護

鳳:180件/月 介護80件(日当円6000円) 医療100件(日当円9000円)

蔵前:290件/月 介護 140件(日当円 5500円) 医療 150件(日当円 8000円)

ヘルパーステーション

鳳:利用者 24/月(件当円 184000円) 住宅内 20 住宅外 4 :自立支援 4(重複可) 平均介護度 3.3

月/生活 175 件 身体 870 件 身体生活 22 件 障害 180 件 合計 1247 件 月/合計 620 時間

蔵前:利用 63/月 (件当円 102000 円) 住宅内 38 住宅外 25 :自立支援 5 (重複可) 平均介護度 2.3

月/生活 280 件 身体 1300 件 身体生活 80 件 予防 100 件 障害 160 件 計 1920 月/合計 1020 時間